

東京都健康長寿医療センター研究所

## Index

就任のご挨拶	1
所内研究討論会レポート	6
友の会交流会レポート	7
科学技術週間参加行事レポート	7
新幹部紹介	8
表彰	10
科学研究費助成事業の採択状況	10
主なマスコミ報道・編集後記	12



## 副所長(自然科学系)就任のご挨拶

～第四期中期計画での「老化、老年病研究」に向けて～

副所長 石神 昭人

### はじめに

令和5年4月  
から自然科学系  
副所長に就任し  
ました石神昭  
人です。私は、  
1994年1月に

米国国立老化研究所 (National Institute on Aging) より帰国後、当研究所の前身である東京都老人総合研究所に研究員として着任しました。以来、途中3年間 (2008-2011

年) は大学に籍を置きましたが、主任研究員、研究副部長、研究部長、チームリーダーとして通算で25年間にわたり老化研究に従事してきました。研究所では、1972年開設から昨年度で50周年を迎え、2月には、「病院、研究所開設50年・養育院創立150年記念事業」を実施することができました。研究所の変遷50年の半分以上を目の当たりにして、多くの著名な先輩方が築き上げてきた世界に名高い老化研究所を守り、さらに発展させるべく、その大役を担う責任の重さを痛感する

とともに、身の引き締まる思いです。

### 第四期中期計画で目指すこと

さて、令和5年4月から令和9年度までの5年間（2023年～2027年）、第四期中期計画により策定された計画に基づき老化、老年病研究が進行します。自然科学系では、第四期中期計画期間に高齢者の健康維持や老化、老年病の機序解明、老化を制御する方法論の確立、早期診断法および予防法の開発・実装を目指すという視点からの基盤的研究を推進します。老年病研究では、血管病、高齢者がん、認知症、高齢者糖尿病などの予防、早期発見、早期治療のため、発症・病態のメカニズムの解明を進め、新規診断・治療法などの開発、臨床への応用を推進します。また、高齢者特有の臨床症状であるサルコペニア、フレイルなど老年症候群の克服に向け、その発症機序の解明と早期の診断方法、有効な予防・治療法の開発、臨床への応用を進め、高齢者の生活の質の向上を図ります。さらに、PET（陽電子放出断層撮影）を用いた認知症の新たな画像解析法や早期診断法の開発と応用に取り組むほか、国内外の治験に協力をを行い、研究成果の社会還元を目指します。

### 自然科学系の研究体制

現在、自然科学系は、老化機構、老化制御、老化脳神経科学、老年病理学、神経画像、そして令和5年4月より新たに新設した加齢変

容からなる6つの研究チームにより構成されます。また、それぞれの研究チームには、複数のテーマ研究があり、チームが掲げる目標を達成するために基礎老化、老年医学、糖鎖、蛋白質、栄養、神経、行動、運動、病理、核医学、がん、AIなど、多様な専門分野を有する研究者が多くいます。加えて、自然科学系では、高齢者ブレインバンク、高齢者バイオリソースセンターなどの研究基盤推進事業により、国内外での高齢者研究や医療の発展にも寄与しています。このように、自然科学系では様々な専門分野の研究者が集い、最先端技術を駆使して多面的で複雑な老化、老年病の機序解明や老化を制御する方法論の確立、早期診断法および予防法の開発・実装を実現するために日々研究に取り組んでいます。

### おわりに

老化や老年病は、生涯という長い時間の中で様々な遺伝因子や環境要因とそれに対する生体応答の複雑な相互作用の過程で生じます。老化や老年病の進行速度およびその程度には個人差が大きく、その機構を解明できれば科学的根拠が明確で画期的な治療法や早期診断・予防法を開発できます。日本では、65歳以上の人口の割合が全人口の21%を超える「超高齢社会」を既に2010年に迎えており、今後も超高齢社会は継続します。そのため、高齢者の心身が健康で地域での生活維持を可能にする老化や老年病研究の成果に、

都民や日本国民の皆様の期待が増々高まっていることをひしひしと感じています。第四期中期計画では、第三期中期計画までの研究成

果を礎にさらに老化、老年病研究を発展させるべく取り組む所存です。皆様のご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

研究系	研究チーム	テーマ名
自然科学系	老化機構	分子機構
		プロテオーム
		システム加齢医学
	老化制御	分子老化制御
		生体調節機能
		老化細胞
	老化脳神経科学	自律神経機能
		記憶神経科学
		老化神経生物学
	加齢変容	心血管老化再生医学
	老年病理学	高齢者がん
		神経病理学
	神経画像	PET 薬剤科学
		PET 画像診断
		AI 画像解析

## 副所長(社会科学系)就任のご挨拶

～第四期中期計画「高齢者と共に拓く、持続可能な地域共生社会の創造」をめざして～

副所長 藤原 佳典



この度、社会科学系副所長に就任しました藤原佳典です。私は、京都大学病院老年科、東京都立大学都市研

究所等を経て、2000年に東京都老人総合研究所（当センター研究所の前身）地域保健部

門に入職し、2011年社会参加と地域保健研究チーム（現在の社会参加とヘルシーエイジング研究チーム）の研究部長に着任しました。専門は公衆衛生学、老年医学、老年社会科学であり、地域高齢者の疫学研究を行って参りましたが、2003年米国ジョーンズホプキンス大学留学後は、「高齢者の社会参加・社会貢献が導く、多面的な効果の検証とその普及展開」についての研究に従事してきました。

例えば、米国の学校ボランティア研究を参考に高齢者による子どもへの絵本の読み聞かせプログラム「REPRINTS」を開発しました。就労の側面からは、多忙な介護現場で高齢者が現役介護士の周辺業務を担う「介護助手」の研究に取り組んできました。いずれの研究も高齢者自身の心身の健康効果に加えて、子育て世代をはじめとした現役世代への次世代支援効果、更には、地域社会全体への波及効果の「三方よし」効果を検証しました。これらの知見を踏まえて、最近では、介護予防・フレイル予防に資する多様な「居場所・通いの場」づくりの研究へと発展させ、国や自治体の政策につなげております。

### 第四期中期計画がめざす ゴールと研究体制

当センターでは、2023年4月から5年間の第四期中期計画がスタートしました。社会科学系研究の大目標は、来たるべき2040年問題、つまり1971～1974年生まれの団塊ジュニア世代が高齢者になり、現役世代が急

速に減少する社会への処方箋を提示することです。そのために、第四期中期計画では、超高齢社会の最重要課題である、「認知症」、「フレイル」、「社会的孤立・孤独」、「健康格差」の解決に向けて、「予防と共生」の視点から重層的な研究を進めていきたいと思っております。基礎研究としては、上記の4つの重要課題について要因の解明を進めます。応用研究としては、それらの要因を克服するためのプログラムや製品のモデルを開発・検証し、さらには実社会への普及・展開を進めます。

各研究チーム・テーマはそれぞれ連携しつつ、高齢者個人の要因の側面からは、運動、栄養・口腔、社会参加・貢献といった望ましい生活習慣や糖尿病や筋骨格系疾患などの慢性疾患の予防・管理について研究します。一方、高齢者の健康は個人の努力だけで維持・向上できるものではありません。そこで、健康に影響を与える環境要因の側面からは、地域・社会環境、社会システム、デジタル化についての研究を推進します。これらの研究により、健康長寿社会の実現をめざします。加

研究系	研究チーム	テーマ名
社会科学系	社会参加とヘルシーエイジング	社会参加・社会貢献
		ヘルシーエイジング
		大都市社会関係基盤
	自立促進と精神保健	フレイル・筋骨格系の健康
		オーラルフレイル・栄養
		認知症・精神保健
	福祉と生活ケア	デジタル高齢社会
		医療・介護システム
		ソーシャルインクルージョン

えて、高齢者が活躍することにより、超高齢社会を共に支える全ての世代が希望と尊厳をもって暮らすことができる社会の実現、すなわち、「高齢者と共に拓く、持続可能な地域共生社会の創造」に寄与したいと考えております。

### 部門・分野横断的な 研究プロジェクトの展開から社会 実装へ：渋沢栄一の思いを胸に

高齢者の個人内の変化を捉えるためには、時代や地域の影響を考慮した長期縦断調査が重要です。これまで、個々に進められてきた首都圏における5つの長期縦断研究をそれぞれの特徴や独創性を保ちながらも東京LSA (Longitudinal Study on Aging) と称して、連携し、ビッグデータの強みを活かす研究へと発展させます。

また、2020年度に開設した「認知症未来社会創造センター」と「フレイル予防センター」では社会科学系・自然科学系の研究チー



ムと病院部門のスタッフが連携しながら認知症とフレイルについての総合的な研究を進めています。第四期中期計画では、社会科学系研究チームは、研究成果を民間企業とも連携し、都内をはじめとする自治体や地域医療へ還元したいと思えます。

2023年2月には、「病院、研究所開設50年・養育院創立150年記念事業」を開催することができました。初代院長の渋沢栄一は、名著「論語と算盤」において、福祉と実業の連携

こそが日本社会を持続的に発展する礎であることを説きました。この銘こそが、社会科学系研究チームが目指すべき、「健康福祉研究の開発とその社会実装・還元」と言えます。このことを胸に刻み、日々、精進いたします。皆さまのご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。



# 令和4年度 所内研究討論会レポート

老年病態研究チーム 研究員 佐々木紀彦  
 自立促進と精神保健研究チーム 研究員 稲垣 宏樹

昨年に引き続き、ポスター形式にて所内研究討論会が令和5年3月13日に開催されました。今回は、約半年間に渡りポスター掲示などで発表者を募り、9名（自然科学系4名、社会科学系5名）の研究員に最新の研究成果を発表してもらいました。

昨年以上に多くの研究員が本会に参加し、報告者との間で質疑応答が活発に行われた印象でした。また、ひとり1時間の発表時間に対して2時間近く発表している研究員もあり、時間を気にせずより深い議論が行われたと思います。

当研究所は基礎医学・生物学を基盤とする

自然科学系と疫学・介護福祉など社会実装を展開する社会科学系の研究を行っていることが特徴であり、さらに病院部門との連携した学際的な研究を展開していることも強みでもあります。老年学は大変幅広い学問領域であり、それぞれの研究アプローチは異なります。所内討論会を通して、お互いの研究を理解し議論することで、新たな潮流となる創造的な研究に結び付ける役割をこれからも担っていく機会としていきたいと考えています。また、会の目的にある、研究員同士の交流をより深められるような試みを次回以降に行っていきたいと考えています。

## 【自然科学系】

- ① 津島博道（老化制御研究チーム）  
「マウス筋細胞由来抗細胞老化因子の探索」
- ② 土志田裕太（老化制御研究チーム）  
「マウス胎児肝臓における老化関連遺伝子の発現」
- ③ 渡辺信博（老化脳神経科学研究チーム）  
「一過性脳虚血時の脳血管反応に対する軟膜動脈周囲のアミロイドβ蓄積の影響—アルツハイマー病モデルマウスを用いた検討—」
- ④ 佐藤薫（老化機構研究チーム）  
「ヒト神経細胞におけるeCLIP-seq法を用いたストレス顆粒RNA分子の網羅的解析」

## 【社会科学系】

- ⑤ 三浦有花（社会参加と地域保健研究チーム）  
「Different methods of foot elevation do not change the elevation position of the foot」
- ⑥ 大田崇央（自立促進と精神保健研究チーム）  
「Muscle Strength and the Onset of Depressive Symptoms Among Older Japanese Women :The Otassha Study」
- ⑦ 小島成実（自立促進と精神保健研究チーム）  
「門レベルの腸内細菌組成と脳のアミロイドPET診断結果との関係」
- ⑧ 菊地和則（福祉と生活ケア研究チーム）  
「独居認知症高齢者の行方不明発生率に関する研究」
- ⑨ 畑中翔（自立促進と精神保健研究チーム）  
「位相角を指標とした筋質と身体機能の関連：板橋健康長寿縦断研究」

※チーム名称は令和4年度当時の所属です。

## 令和4年度 友の会交流会レポート

総務課総務係 有間 桃子

3月8日(水)に開催された友の会交流会では、19名の方にご参加いただきました。当センター研究所老年病態研究チーム豊田研究副部長が「新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の診断:PCR検査と抗原検査」というタイトルで講演しました。講演では、ウイルスが人の体へ侵入してから増殖するまでの仕組み、PCR検査の原理やその活用方法など身近な例を用いながら詳しくお話ししました。

参加者からの質問では、PCR検査が新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染拡大前後でどのよ

うに変化したかや、その活用範囲に関するご質問などが寄せられ、豊田研究副部長ができるだけわかりやすく丁寧に回答しました。

次回の交流会も多くの方にご参加いただき、会員の皆様と研究員との交流を通して、より良質な研究が醸成されることを期待します。



豊田研究副部長



会場の様子

### 参加者の声

- PCR検査と抗原検査の違いをわかりやすく教えていただきました。PCRの活用がこれほどあることを知り勉強になりました。
- 少し難しい内容でしたが、満足でした。忘れないように努めます。

## 令和5年度 科学技術週間参加行事レポート

総務課総務係 工藤 葵

4月18日(火)に科学技術週間参加行事を開催し、168名の方にご参加いただきました。

講演会では、老化脳神経科学研究チーム 渡辺信博研究員が「最新イメージング技術で脳血管のはたらきを見る」と題し、脳と血流の関係、脳血管の構造と働き、最新の装置を用いたイメージング研究についてお話ししました。質疑応答では様々な角度からの質問が飛び交い、大いに盛り上がりました。

ポスター発表では、9つの研究チームの研究員がポスターの前に立ち、研究内容を紹介しました。参加者の皆さまが熱心に説明に耳を傾けられたり、質問をされたりする姿が多く見受けられ、研究員からも皆さまとの交流が良い刺激になったという声が多く上がりました。

当研究所では、今後も研究内容を一般公開できるイベントを開催予定です。ホームページ・広報誌で日時をご確認のうえ、ぜひご参加ください。

### 参加者の声

- 来場者が多くて充実した催しと思いました。質疑応答もよかったです。
- 講演の内容がとてもよかったです。説明が面白く、脳について知らないことをたくさん知ることができました。ポスター発表も興味・関心のもてるものが多く、説明も丁寧・親切で楽しみながら参加できました。



質疑応答の様子



ポスター発表

## 新幹部紹介

### 老化機構研究チーム



2013年に遠藤玉夫シニアフェローから分子機構研究チームリーダーを引き継ぎ、この4月に

研究部長を拝命いたしました。本テーマでは「糖鎖」の働きに着目して老化や疾患のメカニズムを研究しています。細胞の表面には様々な構造をした糖鎖が無数に存在して細胞の働き

研究部長 萬谷 博

をコントロールしています。これまでに認知症や筋疾患に関わる糖鎖の働きや重要性を明らかにしてきました。基礎研究が中心の研究室ですが、多領域の研究者が集う当研究所の学際的利点を生かして、広い視点からの研究や情報発信を心掛けて、「老化と糖鎖」が研究所の特色のひとつになり得るよう尽力して参ります。何卒宜しくお願い申し上げます。



2023年4月1日付でプロテオーム研究の研究部長を拝命いたしました。早いものでプロテ

オーム研究に異動してから10年近くが経ち、この間、タンパク質を中心とした分析システム、解析システムの基盤構築に努めるとともに、社会科学系チームや病院部門、他機関と

研究部長 三浦 ゆり

の共同研究を進め、老化や老化関連疾患さらに健康長寿に関連するタンパク質とその翻訳後修飾について、幅広く研究してきました。

今後も様々な専門をもつ研究者との共同研究を進めるとともに、グループとして、チームとして、これまで以上に成果をあげられるよう精一杯取り組んでまいります。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

### 神経画像研究チーム



神経画像研究チームのチームリーダー（研究部長）を拝命しました豊原です。神経画像研究チー

研究部長 豊原 潤

ムの前身となるPET施設の開設は、私が大学院卒業後に放射性医薬品メーカーの研究者となった時期と重なっており、当時、学会などで鋭い質問をしていた老人研PETグループは

憧れでもあり、恐れ多くて近寄り難い存在でもありました。今、そのPET施設のリーダーを任されたことは、とても感慨深いものがあります。PETは学際的な研究分野であり、様々な分野の優れた研究者が集うことによって、



神経画像研究チームAI画像解析のチームリーダーを拝命いたしました。

昨年度まで病院部門の核医学検査を担っておりましたが、臨床医から研究者への大転換というわけではございません。今までも病院側にいながら研究所の神経画像研究チームと協力をしながら研究を進めて参りました。

研究の可能性を無限に広げることができません。これまで同様、研究所内外の皆様に対して開かれたPET施設として研究のレベルアップと社会還元に努めていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

### 専門部長 亀山 征史

例えば、大学を卒業してすぐに生理学の大学院に進学し、電気生理とfunctional MRIの研究をしたものの、体調を崩して「余生は臨床に」と思い放射線科へ転専攻いたしました。あれから、20数年ぶりに研究の籍に戻ってきたことは感慨深く思います。

顔写真での認知症弁別などのAI研究や、PETを含めた核医学の動態解析、理論医学の研究を進めていきたいと思っております。

## 社会参加とヘルシーエイジング研究チーム



2023年4月より、社会参加とヘルシーエイジング研究チームリーダー・研究部長に就任しました。

大学院卒業後に東京都老人総合研究所に入所し、25年目になります。名称が「東京都健康長寿医療センター」に変わってからは「社会科学系の研究もしているのですね」と驚かれ、少々複雑な心境になることもあり

### 研究部長 小林 江里香

ます。健康長寿は多くの高齢者の願いではありますが、健康は目標というよりやりたいことを支えるための資源であり、健康を失ってから人生は続きます。また、社会参加は、参加者自身だけでなく、周囲の人や社会にも影響を与え得るものです。チームメンバーとともに、今後も幅広い視点で高齢社会の課題に取り組んでいきたいと思っております。

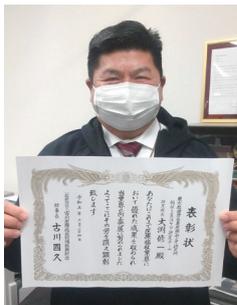


令和4年度 東京都医師会医学研究賞奨励賞

がん悪性化をもたらす転写因子群による相分離形成機構

老化機構研究チーム 専門副部長 高山 賢一

私はがん細胞が抗がん剤などに対して治療抵抗性を獲得するという臨床の問題に取り組んでいます。そのためにはなぜ難治化するのか悪性化の機構を調べる必要があります。本研究では男性で患者数が増加している前立腺がんに着目しました。治療抵抗性のがんでは OCT4 と呼ばれる転写因子が鍵となり、相分離を高めることで核内蛋白質複合体形成を促進し標的となる遺伝子の活性化を起こしていました。相分離とは均一な混合物から2つの区別できる相が生成される物理現象（例：水と油の混合時に油滴が形成される）です。また転写因子群による相分離機構を標的とすることが新たな治療につながる可能性も初めて示しました。これからも研究を通じて、健康長寿に貢献できるよう頑張りたいです。



一般財団法人古川医療福祉設備振興財団  
「顕彰表彰式・研究助成金贈呈式」 第10回顕彰

高齢者健康増進事業支援室 研究部長 大淵 修一

この度、第10回古川医療福祉設備振興財団の顕彰を受けました。この古川医療福祉設備振興財団は、急速な少子高齢化に対し既存の枠組みを超えたライフインベションの一助になることを目的に、SHIPヘルスケアホールディングス会長の古川國久氏が私財を投じて設立されたものです。今回は、個人4名、団体5団体が顕彰を受けました。私は「高齢者の筋力向上トレーニングのエビデンスとその普及啓発活動」に対して評価をいただきました。これからも高齢者の生活機能の維持向上のために研究を続けてまいります。

令和5年度 科学研究費助成事業（科学研究費補助金及び学術研究助成基金助成金）の採択状況  
（学術研究助成基金助成金の継続課題を含む）

令和5年4月1日現在（チーム・研究種目順）

所属研究チーム	氏名	研究種目	新規	研究課題
老化機構	井上聡	基盤研究 (A)		呼吸鎖超複合体形成因子 Cox7rp の作用機構の解明と標的臓器・長寿における役割
老化機構	梅澤啓太郎	基盤研究 (B)		タンパク質の超硫黄修飾を基軸とした新しい疾患発症機構研究
老化機構	萬谷博	基盤研究 (B)	☆	O-マンノース型糖鎖修飾の分子基盤と生理的意義の解明
老化機構	三浦ゆり	基盤研究 (B)	☆	N-グライコプロテオミクスを基盤とした超百寿者脳老化制御メカニズムの解明
老化機構	津元裕樹	基盤研究 (C)	☆	シアル酸結合様式を区別したハイスループット糖ペプチド解析法の開発と応用
老化機構	今江理恵子	基盤研究 (C)	☆	グリセロール-3-リン酸含有糖鎖の合成制御機構および癌における役割の解明
老化機構	高山賢一	基盤研究 (C)	☆	性ホルモン関連 RNA 結合タンパク質の機能解析と老年病発生における役割の解明
老化機構	川上恭司郎	基盤研究 (C)	☆	血管内皮障害を血液から測る～血管内皮由来細胞外小胞の精製と解析～
老化機構	竹岩俊彦	基盤研究 (C)	☆	卵巣がんにおける RNA 結合蛋白質・非コード RNA 複合体の同定、機能解明と臨床応用
老化機構	星野駿介	若手研究	☆	哺乳類における糖鎖構成糖アルコール類の生合成機構及び生理的役割の解明
老化制御	河田 光弘 (協力研究員)	基盤研究 (C)		急性大動脈解離での肺酸化障害抑制に向けた水素ガス吸入療法の検討
老化制御	滝野有花	基盤研究 (C)		老化関連遺伝子導入による細胞老化の誘導と老化細胞除去薬の探索
老化制御	杉本昌隆	基盤研究 (B)		細胞の質的变化に基づく肺組織老化・疾患促進機構の研究：細胞老化の視点から
老化制御	石神昭人	基盤研究 (B)		老化細胞の特定と老化細胞死誘導剤 Senolytic 薬による老化制御の達成
老化制御	藤田泰典	基盤研究 (C)	☆	複製老化過程に潜在するミトコンドリア代謝容容の同定と細胞老化メカニズムの解明
老化制御	池谷真澄	基盤研究 (C)		脂質変化とエンドソーム変化を介する水素投与によるストレス耐性獲得機構の解明
老化制御	萬谷啓子	基盤研究 (C)		オミクス解析による肺の老化メカニズムの解明
老化制御	佐藤綾美	若手研究		表皮角化のエピジェネティクス制御機構及びその加齢変化におけるビタミン C の意義
老化制御	津島博道	若手研究		老化細胞に着目した新型コロナウイルス重症化メカニズムの解明
老化制御	土志田裕太	研究活動スタート支援		健康寿命の延伸に向けた老化細胞を除去する Senolytic 薬の探索
老化制御	杉本昌隆	挑戦的研究 (萌芽)		運動による老化細胞除去機構の解明—慢性呼吸器疾患治療モデルへの展開

所属研究チーム	氏名	研究種目	新規	研究課題
老化脳神経科学	堀田晴美	基盤研究 (B)		嚥下にとまらぬ自律神経の活性化が骨格筋におよぼす作用とサルコペニア予防への応用
老化脳神経科学	渡邊信博	基盤研究 (C)		皮膚刺激によるメラトニン分泌促進作用の神経性機序の解明と高齢者の睡眠ケアへの応用
老化脳神経科学	内田さえ	基盤研究 (C)		高齢者の認知機能を活性化する最適な嗅覚刺激法の開発研究
老化脳神経科学	井上律子	基盤研究 (C)		老化初期からの歩行機能低下の改善：脳ミトコンドリア機能改善による介入法の検討
老化脳神経科学	柳井修一	基盤研究 (C)		軽度認知障害モデルマウスの認知機能と歩行機能に関わる cAMP シグナル伝達系の役割
老化脳神経科学	瀧川健司	若手研究		単一シナプスレベルでの蛍光 GABA イメージングによる開口放出制御機構の解明
加齢変容	板倉陽子	基盤研究 (C)		心不全パネミックの予防を目指した高齢者心疾患に関わる糖鎖関連因子の解明
加齢変容	佐々木紀彦	基盤研究 (C)		ヘパラン硫酸硫酸化酵素を標的とした老化関連疾患の予防・治療法の開発
老年病理学	岩田 淳 (協力研究員)	基盤研究 (B)		BRCA1 の機能回復に基づいたアルツハイマー病神経細胞 DNA 傷害の修復機構の解明
老年病理学	野中敬介	若手研究	☆	慢性ストレスがヒト海馬および扁桃体組織に及ぼす影響の検討
老年病理学	志智優樹	基盤研究 (C)		腫瘍細胞の可変性制御による新規治療法の研究
老年病理学	五味不二也	基盤研究 (C)		幹細胞表面特異的糖鎖を標的とした癌腫の新規治療法の開発
老年病理学	新井 富生 (協力研究員)	基盤研究 (C)		高齢者胃癌の遺伝子異常に基づく病態解明と治療戦略
老年病理学	齊藤祐子	基盤研究 (C)		末梢型 Lewy 小体の形態・分子病理学的研究
老年病理学	石渡俊行	基盤研究 (C)		肺癌の上皮間葉系形質の制御による新規治療法の開発
老年病理学	松原知康 (3/31 退職)	若手研究		ドバミントランスポーターイメージングの病理学的基盤の解明
神経画像	石橋賢士	基盤研究 (C)	☆	神経変性疾患におけるアストログリアシグナル画像：臨床と病理の関連を踏まえた臨床応用
神経画像	豊原潤	基盤研究 (C)		AQP4 に対する高感度かつ選択的な高品質の PET 薬剤の実用化
神経画像	多胡哲郎	基盤研究 (C)		構造最適化による高性能 PET 用脳内 HDAC6 フロブの開発
社会参加とヘルシーエイジング	小林江里香	基盤研究 (A)		高齢者におけるエイジングと時代的・世界的変化、パンデミックへの適応
社会参加とヘルシーエイジング	藤原佳典	基盤研究 (B)		シルバー人材センター会員に着目した高齢者就業者の安全・健康管理に向けた要因の解明
社会参加とヘルシーエイジング	村山洋史	基盤研究 (B)		介護助手に焦点を当てた高齢期就労の健康影響に関する包括的エビデンスの構築
社会参加とヘルシーエイジング	村山陽	基盤研究 (B)		単身中高年者の孤立と貧困の一次予防に向けたチェックリスト開発とコミュニティ実装
社会参加とヘルシーエイジング	野中久美子	基盤研究 (B)		社会的孤立状態にある高齢者の生活実態と実情の徹底解明に向けた基礎的研究
社会参加とヘルシーエイジング	阿部巧	基盤研究 (B)		交通行動を基軸とした健康づくり戦略立案のための包括的知見の創出
社会参加とヘルシーエイジング	鈴木宏幸	基盤研究 (B)		新規学習を題材とした認知機能低下抑制介入プログラムにおける介入効果の機序の解明
社会参加とヘルシーエイジング	清野諭	基盤研究 (B)		フレイル予防の大都市モデル創出のための地域介入研究：長期的効果の検証と他地域展開
社会参加とヘルシーエイジング	藤田幸司	基盤研究 (B)	☆	世代間交流プログラムの普及拡大および継続のための促進要因の解明と支援策の開発
社会参加とヘルシーエイジング	松永博子	若手研究	☆	妊産婦のメンタルヘルス対策のための地域づくり型産後ケアプログラムの開発と効果検証
社会参加とヘルシーエイジング	小川将	若手研究	☆	「地域連携型 SOS の出し方に関する教育プログラム」の作成
社会参加とヘルシーエイジング	西真理子	基盤研究 (C)		地域在住高齢者の主観的ウェルビーイングの維持・向上を目的としたアクションリサーチ
社会参加とヘルシーエイジング	齋藤尚子	基盤研究 (C)		市町村母子保健担当保健師を対象とした養親への支援ガイドの開発
社会参加とヘルシーエイジング	藤田幸司	挑戦的研究 (萌芽)		働き盛り世代の男性を対象とした社会参加プログラムの開発とメンタルヘルスへの効果
社会参加とヘルシーエイジング	桜井良太	挑戦的研究 (萌芽)		積極的孤立は健康悪化につながるか？—社会科学的・神経科学的検討—
社会参加とヘルシーエイジング	横山友里	若手研究		地域高齢者のたんぱく質摂取量の不足を防ぐための効果的なアプローチ方法の開発
社会参加とヘルシーエイジング	高橋知也	若手研究		「命・つながり・SOS の出し方プログラム」の有効性および短期・長期的効果の検討
社会参加とヘルシーエイジング	杉浦圭子 (3/31 退職)	基盤研究 (C)	☆	複合的課題を有する高齢者の社会的孤立解消の效果的・効率的支援の構築に関する研究
自立促進と精神保健	笹井浩行	基盤研究 (B)		高齢者の 24 時間身体活動・座位行動・睡眠ガイドライン策定に向けた科学的基盤の構築
自立促進と精神保健	平野浩彦	基盤研究 (B)	☆	高齢者の口腔機能低下から摂食嚥下機能障害の包括的評価システム構築に関する調査研究
自立促進と精神保健	小島成美	基盤研究 (C)	☆	日本人高齢者においてエクオール産生能が大豆製品摂取のフレイル予防効果に与える影響
自立促進と精神保健	大村千晶 (安藤千晶)	基盤研究 (C)	☆	慢性疼痛看護の構築に向けて-痛み日誌を用いた遠隔型看護介入の効果検証
自立促進と精神保健	稲垣宏樹	基盤研究 (C)	☆	地域在住高齢者の援助希求行動の実態把握と促進/阻害要因の検討
自立促進と精神保健	三浦和仁	若手研究	☆	口腔機能低下パターンの解明：健康からフレイル、そして要介護まで
自立促進と精神保健	出口直樹	若手研究	☆	変形性膝関節症を有する高齢者のフレイル予防に向けた 24 時間行動の構築
自立促進と精神保健	畑中翔	若手研究	☆	転倒・要介護リスクの筋質による総合的評価：機械学習を用いた検討
自立促進と精神保健	小原由紀	基盤研究 (C)		高齢期における口腔機能低下と腸内細菌叢との関連性に関する研究
自立促進と精神保健	多賀努 (外部研究員)	基盤研究 (C)		自己効力感を利用した若年性認知症の福祉的就労の場の拡大に関する研究
自立促進と精神保健	枝広あや子	基盤研究 (C)		本人視点を重視した地域在住認知症高齢者の歯科受診の障壁の解明
自立促進と精神保健	若崎正則 (3/31 退職)	基盤研究 (C)		多歯時代の歯周病：機械学習による将来予測とスクリーニングスコアの開発
自立促進と精神保健	宮前史子	基盤研究 (C)		看取りを工夫した地域包括ケアシステムの可視化とスクリーニングスコアの確立に資する実態調査研究
自立促進と精神保健	本川佳子	基盤研究 (C)		高齢糖尿病患者のフレイル対策に焦点化した栄養ケア方法の確立に資する実態調査研究
自立促進と精神保健	宇良千秋	挑戦的研究 (萌芽)		都市部で認知症とともに暮らす人を包摂する電話によるピアサポートの構築
自立促進と精神保健	志田隆史	若手研究		リポソーム発現遺伝子に着目した肝臓の新規診断および治療法の開発
自立促進と精神保健	山下真里	若手研究		高齢者の社会参加を動機づける支援シートの開発
自立促進と精神保健	白部麻樹	若手研究		アルツハイマー型認知症の容態に応じた円滑な口腔機能管理に関する調査研究
自立促進と精神保健	大丸香	研究活動スタート支援		都市在住高齢者におけるフレイルの発生、進行、多面性に対するポリファーマシーの影響
福祉と生活ケア	石崎達郎	基盤研究 (B)		高齢者における多剤処方の健康影響評価と服薬指導プログラムの研究開発
福祉と生活ケア	光武誠吾	基盤研究 (B)		医療・介護ビッグデータを用いた再入院発生予測モデルの開発と再入院予防策への提案
福祉と生活ケア	涌井智子	基盤研究 (B)		インフォーマルケアにおける介護者の生活実態の解明と在宅介護支援策の検討
福祉と生活ケア	大淵修一	基盤研究 (C)	☆	アンクルバンド型加速度計による在宅での歩行速度計測の妥当性とフレイル判別能の検証
福祉と生活ケア	河合恒	基盤研究 (C)	☆	フレイル高齢者における日常生活歩行速度と健康状態との関連の解明
福祉と生活ケア	今村慶吾	若手研究	☆	社会的孤立の有無で分けた地域在住高齢者における修正可能な機能の縦断的軌跡の解明
福祉と生活ケア	伊藤久美子 (外部研究員)	若手研究	☆	地域高齢者における地域活動への参加を止める関連要因の解明
福祉と生活ケア	江尻愛美	若手研究	☆	身体的にフレイルな高齢者における精神的健康を保つためのコーピングの解明
福祉と生活ケア	井藤佳恵	基盤研究 (C)		認知症の保健・医療・介護連携体制のための多職種連携教育プログラムの開発
福祉と生活ケア	池内朋子	若手研究		「自立」意識が高齢者の意思決定プロセスに与える影響
福祉と生活ケア	堀紀子	若手研究		地域在住高齢者のフレイル予防とヘルスリテラシー関与の解明
福祉と生活ケア	津田修治	若手研究		認知症初期の本人の主体性を支えるリハビリモデルに基づく新基軸介入プログラム
実験動物施設	野田義博	基盤研究 (C)		加齢に伴う造精機能障害における分子状水素の改善効果
IRIDE	栗原正典 (協力研究員)	若手研究	☆	脳脊髄液と神経系細胞モデルから迫る神経核内封入体病の病態解明
IRIDE	佐藤薫	基盤研究 (C)		piRNA クラスターにおけるヘテロクロマチン依存的な転写活性化機構の解明
IRIDE	大瀬賢介	基盤研究 (C)		心筋細胞におけるミトコンドリア恒常性維持機構の加齢変化の解析
IRIDE	大田崇央	若手研究		体力は座位行動を規定するか？：大学生を最長 43 年間追跡したコホート研究
IRIDE	八代嘉美 (3/31 退職)	基盤研究 (B)		サイエンスとサイエンスフィクションで探求する人間の生命の形
介護予防・フレイル 予防推進支援センター	田中元基 (3/31 退職)	基盤研究 (C)	☆	地域の子育て支援活動への高齢者の参入促進・活動継続支援のための研究
シニアフェロー	遠藤玉夫	基盤研究 (S)		糖アルコールリン酸修飾のバイオロジー
旧：老年病態	大村卓也 (11/30 退職)	若手研究	☆	持続血糖モニターを基盤とした高齢者糖尿病ケアの開発
旧：老年病態	渡邊浩基 (協力研究員)	若手研究		Pendred 症候群モデルマウスにおける平衡障害の評価

※昨春秋に当センターから応募した者の内、採択者を掲載しているため転出者を含み、転入者は含まない。

# 令和5年7月『老いを考えるWEEK』

第165回 老年学・老年医学公開講座

※申込不要・視聴無料

## 老いを目指し老いを見据える

### WEEK 01 7月7日(金)

「みんなモヤモヤ…「終活」だけじゃ足りないの？」

東京都健康長寿医療センター研究所 自立促進と精神保健研究チーム 研究員 宮前 史子

### WEEK 02 7月14日(金)

「高齢期のいわゆる「ごみ屋敷」支援の目的は片づけること、でいいの？」

東京都健康長寿医療センター研究所 福祉と生活ケア研究チーム 研究部長 井藤 佳恵

### WEEK 03 7月21日(金)

「“介護”だけじゃない?! だから悩む家族介護」

東京都健康長寿医療センター研究所 福祉と生活ケア研究チーム 研究員 涌井 智子

**視聴方法** 以下の URL もしくは二次元バーコードよりアクセスしてください。  
(視聴無料・申込不要)  
<https://www.tmghig.jp/research/lecture/gerontology/>



## 主なマスコミ報道

2023.2 ~ 2023.3

### 自立促進と精神保健研究チーム 研究部長 平野 浩彦

- 心身の健康に影響する口腔機能の低下  
(株式会社ヤクルト「ヘルシスト」2023.3.10)
- 診療難しく口の状態悪化  
(読売新聞「読売新聞」2023.3.28)

### 社会参加とヘルシーエイジング研究チーム

研究副部長 鈴木 宏幸

- 人生経験 絵本を趣深く  
(高知新聞「高知新聞」2023.2.23)

### 神経画像研究チーム

専門部長 石井 賢二

- 認知症の新薬、どう使う  
(日本経済新聞「日本経済新聞」2023.3.21)

### 自立促進と精神保健研究チーム 研究員 枝広あや子

- 食事の問題 多職種で改善  
(読売新聞「読売新聞」2023.3.31)

### 自立促進と精神保健研究チーム 研究員 宮前 史子

- 80代が学んだ「認知症ゼミ」(高島平団地)  
(毎日新聞「毎日新聞」2023.3.29)

### 福祉と生活ケア研究チーム

研究員 江尻 愛美

- コロナを乗り越えてきた自信と自覚を  
(日刊スポーツ新聞社「ニッカンシニア」2023.2.7)

※チーム・役職は、令和5年6月現在の名称です。



「3年ぶり」という言葉がよく聞かれ、一見日常生活が戻ってきたように思えます。しかしウイルスは人の言うことに耳を貸すことなく密かに拡がっていきます。新型コロナ以外にも麻疹、エムボックスなどもじわりじわりと増えています。今日の医学の発展の礎の一つに、感染症との闘いの歴史が刻まれています。そして今なお終わりのなき闘いが続いているといえるでしょう。私たちは容易に情報が手に入る一方で、知らぬまに気に入った情報のみを選択していないでしょうか。目に見えないところで起こっていることにもっと関心を寄せる必要があるのではないかと感じます。もしかしたらそこに「生きるためのヒント」が隠れているかもしれません。スマホ画面から少しだけ眼を離して、脳の中で言葉の冒険を試みませんか。  
(各駅停車)



2023年6月発行

編集・発行：地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター 東京都健康長寿医療センター研究所編集委員会  
〒173-0015 板橋区栄町 35-2 Tel. 03-3964-3241 FAX.03-3579-4776

印刷：コロニー印刷

Twitter アドレス：<https://twitter.com/tmghig>

ホームページアドレス：<https://www.tmghig.jp/research/>

無断複写・転載を禁ずる